

コスモス 2月号

第73巻 第2号

◆宮柽ニカレンダー（71）二月の歌

酔ひ酔ひて帰る風の夜わが前に光りて泥は凍りつつあり
歌集『多く夜の歌』

昭和29年の歌。風の夜の道の「泥は凍りつつあり」と細部を鮮やかに描く。「酔ひ酔ひて」とありながら、しかし歌にはどこか一点覚めている感覚があつて、そこに引かれる。これは男の感覚なのだ。上の句に現れる「ヨ」の三回のリズム感、まるで風が流れているかのように思われる。

この歌集の巻末小記に「この八年間は、作歌時間が夜に限られてきました。自分のものとした夜の時間を、絞るやうに大切にして、作歌して来たといふ実感があります」と記す。
(米田 郁夫)